

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2795600010		
法人名	有限会社 ディスカバリー		
事業所名	グループホームホリ		
所在地	大阪府泉南市中小路2丁目1860番地の1		
自己評価作成日	平成 27年 7月 10日	評価結果市町村受理日	平成27年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvoCd=2795600010-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 7月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活に応じて、職員が対応の仕方をかえてより良い雰囲気や、楽しく過ごせる日々を叶えられる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人と同系列の有限会社が運営する、3ユニットのグループホームです。ホームは同系列病院、老人保健施設と隣接して設置されており、利用者は24時間医療連携支援を受けることができます。管理者は、認知症ケア専門士でもあり、認知症の理解を拡げる啓蒙活動にも積極的に取り組み、認知症ケアにおける地域の拠点として役割も担っています。地域の施設関係者と協力して「認知症ケア研究会」を立ち上げ、認知症サポーター養成にも尽力する等、地域貢献に努めています。また、地域との協力体制も良好で、人形劇・大正琴・歌・お神楽等、多くのボランティアの協力があり、利用者の豊かで潤いのある暮らしとなっています。開設以来の職員も多く、職員の定着率が高いことも、利用者・家族の安心と信頼に繋がっています。馴染みの職員が支える毎日は、ほのぼのとしたアットホームな雰囲気を感じさせるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、個人の尊重や家庭的な雰囲気作り等、いつも念頭に置いてみんなで協力して、入居者様の方達と楽しく毎日を送っています。	「個人の尊重」「地域のみなさまと認知症進行の予防」「家庭的な雰囲気づくり」をホームの理念としています。理念は事業所内に掲示し、職員間で共有しています。また、定例の会議でも理念の確認を行っています。職員は、利用者一人ひとりを尊重し、毎日のケアにあたっています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所に訪問させて頂いたり、保育園児が来て下さったりしています。家族様が参加しておられるボランティアさんや家族様が紹介して下さったボランティアさんに来て頂いております。GH側として、廃品回収等にて、地域との交流の一環としています。	ホームでは、踊りや人形劇、歌や大正琴などの地域ボランティアが定期的に訪問しており、利用者と職員の楽しみにつながっています。地域の保育所からは、誕生日会などの行事に招待され、参加しています。また、保育園児がホームの行事に参加するなどの行き来を通じて、交流を深めています。中学生の職業体験や地域の作業所へ廃品の提供をするなど、日常的に地域と交流しています。管理者は、「認知症の啓蒙」についてさまざまな活動しており、地域に向けて情報を発信しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービスの意見交換や運営推進会議時、話しあいを行っています。 認知症ケア研究会を地域の施設関係者と立ち上げ、地域の皆様に利用して頂けるよう場所を提供しています。 認知症コーディネーター又、キャラバンメイトとしての活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で、前回から2ヶ月間の行事や入居者様の様子の報告と、これからの予定をお話しし、御意見を頂き参考にしています。最近では、パワーポイントを使用し利用者の普段の姿を映像を通し、見て頂いています。	運営推進会議要綱に基づき、会議を開催しています。参加者は、地区の民生委員、福祉委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族、利用者で、ホームでの行事や日常の様子等を報告し、話し合いを行っています。報告はパワーポイントを使用し、内容や利用者の様子、表情を解りやすく伝えています。会議の開催について、家族へは文章で伝えています。参加者からの提案で、パワーポイントを使用する事や、民生委員の協力で「がまぐち作り」を開催し、利用者や家族同士の会話が増えるなど、提案を受けて改善した例があります。	会議録は、映像が主になっています。今後は会議の内容を具体的に、記録する事が望まれます。また、会議の内容を地域住民や家族に見てもらおう事で、理解や支援に繋がります。今後は、記録の方法について検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、サポーター養成や、認知症ケア研究会も立ち上げ、みづに連絡を取りながら、一緒に取り組み協力関係を築くように取り組んでいます。	市の担当者とは、日頃の業務を通して相談できる関係ができています。認知症サポーター養成や認知症ケア研究会等、市と共に取り組み、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、帰宅願望等により、閉めておりますが、内側にもドアチャイムを設置して対応しています。職員が付き添い、散歩等の気分転換を図る時もあります。	法人全体で「身体拘束廃止委員会」があり、身体拘束廃止について取り組んでいます。研修も実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。最近ニュースになった、施設の高齢者虐待についても、自分たちのケアを振り返る機会を設けました。フロア出入口の施錠については、利用者はエレベーターを利用し、各階を自由に行き来することが可能です。1階玄関は、ドアにあるチャイムを鳴らし、職員が対応して、外出を希望する利用者は、職員と一緒に出かけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相談員にその都度、対応してもらっている。 この時、一緒に話す機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談員にその都度、対応してもらっている。 この時、一緒に話す機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前相談時、または、入居後においても、その都度、対応し説明をして、理解・納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族様と話すよう、運営推進会議に家族様や地域ボランティア等の方々を含め、意見交換をしています。 直接伝える事が出来ない事項等の為、ご意見箱を設置・対応しています。	家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族が言いやすい雰囲気作りを心がけています。各ユニットで「伝言ファイル」を作成し、家族が来られた時に予め用意していた内容を説明して、説明した職員と家族がサインをしています。年2回家族交流会を開催し、意見交換を行っています。ホームでの生活状況が伝わる写真入りの便りも家族に送付し、好評を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様の訴え・希望・意見等を、ヘルパー会議や申し送りで話しあっています。	毎月のヘルパー会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。また、毎日のミーティングでも活発に意見を出し合っています。管理者は、日常的に何でも話せる雰囲気作りを心がけており、職員の定着が安定している職場環境です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を報告しています。 個々に向上心の持ち方に違いがありますが、事務長等の面談につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接の施設での研修に参加しています。この研修は、外部の講師、又、スタッフ自身が受けてきた研修を発表する場ともなっています。 今年で2回目となる介護指導者の直接対談も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスの意見交換会を2ヵ月/1回行い 質の向上に取り組んでいます。年に1回行われているWAO祭りにも参加し交流を深めています。 職員同士の交流はほとんどありませんが、コーディネーター等の施設研修の場としての提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入居前には困っている事などを、本人様に聞き取りをさせていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前には困っている事などを、家族様に聞き取りをさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前までの趣味や育ってきた環境等お聞きしサービスの方向性についてお話し合いをしています。他科受診が必要な際等、家族さんに同行が見込めない場合、こちらでの対応をさせていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物事を同じ目線で見るとの努力や、共に食べたい物等の希望を聞き取り入れる様にしています。また家族さんと話する時の様に、気軽に話しができる環境作りを心がけています。 (野球が好きな人には一緒にテレビを見、一緒に応援したり心がけています。) 職員や本人に個性がある様に、話しがかみ合う様、個々に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々の問題を家族様に報告し、共に本人にとって、最良の方向性を話しあうようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた美容院・医院の継続をされている方もおられたり、在宅でのヘルパーさんが遊びに来られたりすることもあります。	入居時に、長年馴染んだ生活や好みを聴き取って記録し、職員間で共有しています。また、日常の関わりの中での気づきや発見は、支援計画記録表の連絡事項に記録しています。馴染みの友人が訪問したり、行きつけの美容院や喫茶店に行く利用者もいます。友達の通夜にも参列しました。職員は、一人ひとりの馴染みの関係が途切れない支援を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ皆さんに声掛けし居室にもりきりならないよう、利用者さん同士お話しするきっかけ作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族様が育てられた野菜・花をもってきてくださることがあり、この際、ご本人様の状態等をお伺いすることがあります。また、その家族様より、ご本人と一緒に遊びに来たいと要望していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に聴き取り出来なかった事は、入居後聴き取りをさせていただきます。	入居時に、利用者・家族から生活習慣や趣味、好み、暮らし方の希望等を聞き、記録したシートで把握しています。日頃のなにげない会話や様子から、希望や意向を把握するよう心掛けています。管理者は、「一人ひとりに関心を持つ事」の大切さを職員に伝えていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様にシート(生活歴)をお渡しし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設生活の中で以前の聴き取りに無いご本人の得意とする事を発見することがあります。その際には、継続できるように、スタッフ間での周知に努めています。(申し送り等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>申し送りや、月一回のヘルパー会議で、モニタリングや、ケアのあり方について話し合い、担当者会議録の用紙に家族様の意向や Dr の意見を記入して頂き、介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、原則6カ月に1回作成しており、家族や利用者の思い・意向を反映したものになっています。モニタリングは、毎日のケア記録を基に「モニタリング実施記録表」にまとめ、次期介護計画に繋げています。サービス担当者会議は、ヘルパー会議の中で行い、当日の出勤者が参加しています。医師の意見や家族の要望、担当職員の意見等を反映しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気づいたことは申し送りで、日々の様子・変化の把握、ケアプラン実施記録表による実践できているか確認している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ヘルパー会議や申し送りを利用し本人のニーズに合わせてその都度、対応しています。</p> <p>スタッフ一同が利用者様一人一人に対して取り組んでいます。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>月の行事や、外出日、イベントのポスターを貼り出す事で楽しみをもらい、会話のコミュニケーションの一つとしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・眼科往診・訪問看護があり、本人・家族様の希望にて、往診以外にも受診しています。	入居前からかかりつけの医療機関へは、利用者の希望があれば受診することができます。ホームの協力医からの往診は定期的に受けていますが、必要時にはすぐ来てもらえる体制です。ホームは同系列病院、老人保健施設と隣接して設置されており、利用者は24時間医療連携支援を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、利用者個々に接してもらい、体調の変化のチェックをしてもらっている。受診指示を受けたり、処置の仕方等を伝えてもらっている。看護師自身にも、個人カルテに記入してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症による不穏・徘徊にて家族付き添いが困難な場合には、主治医・家族と話し合いグループホームでの治療を行う等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症による嚥下障害、異食行為については早い段階で話し合いを行い、症状悪化がみられると主治医により家族との話し合いがもたれる。入居時に家族様と話し合い、書類等に記入して頂いている。重度化・終末期に対しては、面会・電話等で連絡をとっている。	ホームでの看取り実施の方針はなく、医療処置が必要になった場合は、同系列の老健や病院等、母体法人全体で対応するよう体制を整えています。方針は、入居時に利用者・家族に説明し理解してもらっています。看取り実施の方針はありませんが、家族の要望を聞き、可能な限りホームで支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の病院への受診、また、ナースにより適切な対応の仕方の支持を頂いたりしています。 数名ではありますが、地元の消防士による救命講習の参加もしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接される施設との合同避難訓練を定期的に昼・夜想定にて実施しています。	年2回、消防署の協力を得て、隣設の病院や老健を含めた避難訓練を実施しています。また、夜間を想定しての訓練も実施しています。非常災害時における食料も準備しています。水の備蓄については、地下水汲み上げ用の貯水タンク内にある水を、活用することになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ等、入居者さんのプライドを傷つけないように注意しています。 認知症進行により、ご自身の現在の呼び名(結婚後)では、ご理解頂けない方については、家族様と相談後、呼び名を考えることもあります。	職員は、「人権・接遇・個人情報について」の研修を受け、利用者への言葉かけや接し方などについて学び、支援に活かしています。また、管理者より「家族のような接し方・利用者本人の思いや意見を尊重するように」と指導を受けています。職員の接し方は、丁寧でやさしく、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや声かけで支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通がうまくできない方にも、上手く言葉かけし、希望や意思決定が出来る様対応しています。 入浴回数をご自身の体調・希望に添えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールの作成はありますが、ご本人の希望・気分により、適時に対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の毎日の髭剃り支援は欠かさず行う。月一回の理美容のボランティアさんにも来てもらっている。 入浴時の衣類などは、なるべくご本人様と一緒にするようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は介護食品を導入しています。そんな中、月2回を利用者様の希望の食材を入れるようにしています。 手作りの際には、会話を楽しみながら作っています。	食事は、業者から副食が届き、ご飯はホームで炊いています。利用者は、下ごしらえから下膳まで、一人ひとりの得意とする役割を担っています。食事の場面では、職員は声かけや見守りをし、利用者との会話を楽しみながら、食事がより楽しみなものになるよう支援しています。手作りの昼食やおやつについては、利用者の希望にそった献立作りを進めており、職員は、利用者と一緒に食事を楽しむ環境作りに努めています。また、玄関先で花を見ながら、お茶を楽しむ機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を毎日行っています。食事以外にも起床時・入浴時・体操後・おやつ時・就寝前にも補水を行っています。食事量、水分量の少ない方には、声掛けにて少しでも摂って頂けるよう対応します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔声かけの実施、義歯のポリドント実施(週2回)希望者は毎日行っています。 認知症進行に伴い、歯磨き粉が使用出来なくなってきた人には、水歯磨きを介助・声掛けにて行う様にしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせて、時間毎にトイレ誘導をしています。 その日によっても、排泄パターンの違いもありますのでその時々にての対応をしています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、声かけやトイレ誘導などの支援をしています。利用者の清潔保持に配慮し、利用者の自立に向けた支援に努めています。各居室にトイレがあり、利用者は安心して排泄することができ、自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の摂取や、体操の実施・廊下を歩行訓練・水分摂取を行っている。 便薬を服用されている方には、排便コントロールしながら、調節します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。入浴を嫌がる方には、気の合う利用者さん同士で誘い合って脱衣所まで来られたり、時間をずらして、入浴して頂いています。排便等にて不潔にならないよう、シャワー浴をさせていただく事もあります。	利用者は、週3回入浴しています。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、本人が入浴する気持ちになるような働きかけを行っています。気の合う利用者が誘うことで、一緒に脱衣所まで来こともあります。ゆず湯などの行事風呂で、より入浴を楽しんでもらいます。また、本人の好みのシャンプーを用意する等、細かな配慮を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内にテレビを設置されている方もありトイレもある事から、ご自身の部屋でゆっくり過ごして頂けます。又、車いす生活をされている方には、適時(食後など)臥床介助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が見れる所に保管されている。薬が変更になった場合は様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	字を書くのが得意な入居者さんには、習字やメニュー書き、手先の器用な入居者さんには、広告でゴミ箱折りをして頂いています。同じ趣味の人同士、他ユニットへ訪問する事もたびたびあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ花見等の行事を企画しています。また、地域のケア研究会の場所(おいでや!泉南)のイベント・畑にお邪魔する事もあります。ごくわずかですが家族様との外出を楽しまれる方もいらっしゃいます。	その日の利用者の希望にそった外出は困難な状況ですが、併設するデイサービスの催しに参加したりしています。また、玄関前の広場でテーブルを出し、ティータイムを楽しむことやボール投げ、散歩等、できる限り戸外に出るよう努めています。地域の認知症研究会の拠点である認知症カフェに出向くことや、受診後に家族と食事へ行く利用者もいます。毎年、桜やあじさいの見物にも出かけています。管理者は、外出の必要性について認識し、外出の機会を増やす工夫をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は家人・本人の了解の元行い、預かりを希望されますとこちらでの管理とさせて頂いております。が、預かりさせて頂く方が増えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	こちらから手紙を出される方はほとんどいませんが、届く事はあります。電話も同じで、かかってくる事が多いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの流し方を忘れ不快に思い、他室のトイレを使用したりされる方には、こまめに流し気持ちよく使用できる様努めています。	ホーム周辺にある木々などの自然な風景が一望できる窓からは、太陽の日差しや季節を感じとれます。ホームの共有生活空間は清潔で、空調や室温に配慮しています。季節の花のちぎり絵や書道、塗り絵等の作品を居間の壁面に掲示しています。長いすは、利用者が静養できるスペースとなり、利用者本位で活動がしやすくなるよう、職員は工夫や配慮をしています。職員は、利用者にとってより居心地よく過ごせるよう、温かい共有空間作りの工夫や検討を行う予定です。	壁面には、利用者が作った季節のちぎり絵作品等を飾っています。しかしながら、単調になりがちのため、再度検討することが期待されます。例えば、テーブルやソファにクッションを置いたり、利用者が懐かしさを感じるような雑貨や小物を増やしたりする等、家庭的でより明るく、温かい共有空間作りを目指してはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファがあり、思い思いの場所で座り、他の方と話をされたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、自宅で使用していた家具等を持って来て頂き、本人が家で過ごしてきた時と同じような居心地よく生活できるようにしています。 認知症進行により危険を伴う方については、その時々に対応をしています。	居室にはトイレと洗面台、作り付けのタンスが設置されています。明るい室内には、使い慣れたタンスや仏壇、寝具等が持ち込まれています。家族との思い出の写真、手作り作品を飾る等、その人らしく、居心地良く暮らせる空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内トイレの場所が分からない人には、場所が分かる様トイレのドアをはずしたり、居室の前に表札や目印を置いて、自立した生活ができる様になっている。		